

## 算数

## ➔ 2年生 | 「分数」

## 折り紙を操作して分数をつくる

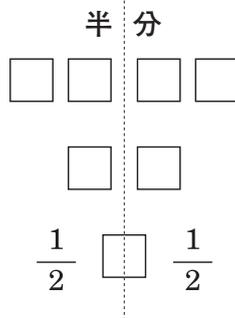
## 1. 本時のねらい

折り紙を使って、2等分、4等分、8等分する活動を通して、大きさが違ったり形が違ったりしても、分数で表すことができることを理解する。

## 2. 授業の流れ

## ① 折り紙を半分に折ろう

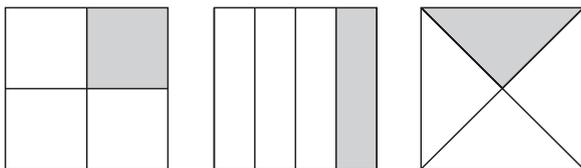
折り紙を4枚提示し、半分の2枚は「2」、さらに2枚の半分は「1」という数で表せることを示す。ここでは「半分」にした時の数の表し方が課題になることを示す。



折り紙を半分に折る。長方形2つに分ける方法と、直角三角形2つに分ける方法の2種類がある。どちらも同じ大きさに2つに分けた1つ分の大きさができる。このように1個のものを2つに分けた1つ分を、 $1/2$ と表すことを教える。なお、中心を通る直線で切ると、斜めに切っても $1/2$ ができる。もし発見する子がいたら紹介し、認めていきたい。

②  $1/2$ を半分にするとどんな形ができるかな

$1/2$ に折った折り紙をさらに2等分すると、もとの大きさを4等分する形ができる。形の違うものができるが、どれももとの大きさの4等分であるので、 $1/4$ と分数で表せることがわかる。

③  $1/4$ をさらに半分にすると

ここで、2、4の次はきっと6だと、「1飛びの

数になっている」と考える子がいるだろう。数の並びに着目して考えたことは大いにほめていきたい。

実際に折ったものを開いて、8つに分かれることを確かめる。8つになる理由を倍と考え、 $4 \times 2$ の式に表せることを話し合わせてもよいだろう。

「分数」という言葉は授業の終わりに、「このような数を分数という」と教えるとよい。

## ■材料の折り紙

折り紙は、子どもの操作を考えると、1辺が15cmの一般的な折り紙がよい。しかし、活動後にノートに貼らせるには、 $1/4$ サイズの7.5cmの折り紙がよい。さらに小さい5cmのものや、逆に掲示用として1辺が25cmや35cm、50cmの大きな折り紙も市販されている。もとの大きさが変わると、 $1/2$ 、 $1/4$ の大きさも変わることを示すこともできる。

## ■分数の書き順

分数の書き順に正式なルールはない。例えば「2分の1」という読み方に合わせて、分母、中の線、分子の順で下から書くという方法がある。しかし、下から書くとノートの下の線に合わせて分子が上にはみ出てしまうことがよくある。そこで、2年生では中の線、分母、分子の順で書くことで、バランスをとっていくとよい。教科書もこれを推奨している。

子どもたちにとってこれまでは、文字は左か上から書くものだった。読んだ通りに上から書くと $1/2$ が $2/1$ になってしまうので、気をつけさせたい。

分数の学習は学年の後半に位置づけられている教科書が多い。しかし、 $1/2$ 、 $1/4$ のような分数は生活の中でも使われている。年度のできるだけ早い時期に学習し、年間を通して、半分になったものを $1/2$ という分数を使って表現できるようにしたい。